

製品構成

製品コード	製品名
AT2710-1	ヒストファイン HER2 IHC キット(POLY)

製品構成

SDS 番号	構成品・附属品
J-1079	抗原賦活化液
J-1080	第一抗体
	陰性コントロール
J-1081	酵素・第二抗体標識ポリマー
J-1082	発色基質
危険物を含まず SDS 対象外	発色試薬

次頁より、SDS をご覧戴けます。

(株)ニチレイバイオサイエンス

安全データシート

作成日: 2020 年 10 月 25 日

SDS 番号: J-1079

第 1 版

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: 抗原賦活化液
 製品コード: AT2710-1: ヒストファイン HER2 IHC キット(POLY); 10 ml ×
 2
 供給者の会社名: 株式会社ニチレイバイオサイエンス
 住所: 東京都中央区築地 6-19-20
 担当部門: 品質保証部
 電話番号: 81-3-3248-2207
 FAX 番号: 81-3-3248-2243
 メールアドレス: n1060x005@nichirei.co.jp
 緊急連絡電話番号: 81-3-3248-2207
 推奨用途及び使用上の制限: 免疫組織化学染色用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類:

物理化学的危険性 区分に該当しない
 健康有害性 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2B
 環境有害性 区分に該当しない/分類できない

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示: なし
 注意喚起語: 警告
 危険有害性情報: 目刺激
 注意書き
 安全対策: 取扱い後は顔や手など、ばく露した皮膚をよく洗うこと。
 応急措置: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。
 保管: 不要
 廃棄: 不要

3. 組成及び成分情報

化学物質の区別: 混合物

化学名	濃度又は	化学式	官報公示整理番号	CAS 番号
-----	------	-----	----------	--------

又は一般名	濃度範囲		化審法	安衛法	
グリセリン	40%	C3H8O3	2-242	-	56-81-5
塩類水溶液	60%	-	-	-	-

分類に寄与する不純物及び安定化添加物: 情報なし

4. 応急措置

暴露措置による応急処置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移すこと。

病状が続く場合には、医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けるこ
と。

眼の刺激が持続する場合、医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。

飲み込んだ場合は、医師の手当てを受けること

医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

応急処置をする者の保護

個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤

周囲の材質に合わせた消火剤を使用する

特有の危険有害性

発火物質: 通常条件ではない。

特有の火炎及び爆発危険性: ない。

特有の消火方法

特有の消火方法は無い

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置

作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を
参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

漏れを適切な吸収剤で吸収する。漏れ区域を洗浄する時は、
大量の水で洗い流す。

水源あるいは下水を汚染下はならない。

7. 取扱及び保管上の注意

取扱

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護
具を着用する。

安全取扱注意事項	蒸気および霧の吸入を避けること。 皮膚及び目の接触を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	もともとの容器に保管する。 特定の温度で保管する。保管温度は製品表示を参照する。
安全な容器包装材料	データなし

8. 暴露防止及び保護措置

物質名	管理濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産衛学会	ACGIH
グリセリン	未設定	未設定	TWA 10mg/m ³ (vapor)
塩類水溶液	未設定	未設定	未設定

設備対策 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
作業区域には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具 適切な呼吸器保護具を使用すること。
手の保護具 適切な耐薬品手袋を着用すること。
眼の保護具 適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色
臭い	無臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし

n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性
 化学的安定性
 危険有害反応可能性
 避けるべき条件
 混触危険物質
 有害な分解生成物

本品に関して危険有害な反応は知られていない。
 通常温度において安定である。
 知られていない。
 高温あるいは直射日光。
 避けるべき材料: 強酸化剤
 一酸化炭素(CO), 二酸化炭素(CO₂)

11. 有害性情報

急性毒性

経口 既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しないに該当するが、毒性未知の成分を1%未満含むので、分類できないに変更。

経皮 既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しない、毒性が未知の成分を1%未満含有するため、分類できないに変更。

吸入: 気体 本品は気体ではないため、区分に該当しない。

吸入: 蒸気 既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分外に該当するが、毒性が未知の成分を1%未満含有するため、分類できないに変更。

吸入: 粉塵、ミスト 既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分外に該当するが、毒性が未知の成分を1%未満含有するため、分類できないに変更。

皮膚腐食性/刺激性

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないが、毒性が未知の成分を1%未満含有するため、分類できないに変更。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

区分 2B の成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分 2B:「目刺激」に該当する。

呼吸器感受性

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当する。

皮膚感受性

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当する。

生殖細胞変異原性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。
発がん性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当する。
生殖毒性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当する。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当する。
誤えん有害性	動粘性率が不明のため、データがなく分類できない。
12. 環境影響情報	
水生環境有害性 短期(急性)	加算法による既知の区分濃度が濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しない。
水生環境有害性 長期(慢性)	加算法による既知の区分濃度が濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないが、毒性未知成分を1%未満含有するため、分類できないに変更。
オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> <p>特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。</p>
汚染容器及び包装	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
14. 輸送上の注意	
本品は危険物に該当しない。	
国際規則	Regulatory Information by Sea Complied with IMO.
	Regulatory Information by Air Complied with ICAO/IATA.
国内規制	陸上規制 消防法の規定に従う。
	海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。
	航空規制情報 航空法の規定に従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
化審法	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
廃棄物処理法	非該当
消防法	非該当
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
海洋汚染防止法	施行令別表第 1 有害液体物質 Z 類物質

16. その他の情報

連絡先
参考文献

株式会社ニチレイバイオサイエンス

NITE GHS 分類公表データ

EU CLP Regulation, Annex VI

RTECS

ECHA C&L Inventory Database

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。

安全データシート

作成日: 2021 年 10 月 25 日

SDS 番号: J-1080

第 1 版

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: 第一抗体、陰性コントロール
 製品コード: AT2710-1: ヒストファイン HER2 IHC キット(POLY); 第一抗体; 2.6 ml × 1
 AT2710-1: ヒストファイン HER2 IHC キット(POLY); 陰性コントロール; 2.6 ml × 1
 供給者の
 会社名: 株式会社ニチレイバイオサイエンス
 住所: 東京都中央区築地 6-19-20
 担当部門: 品質保証部
 電話番号: 81-3-3248-2207
 FAX 番号: 81-3-3248-2243
 メールアドレス: n1060x005@nichirei.co.jp
 緊急連絡
 電話番号: 81-3-3248-2207
 推奨用途及び
 使用上の制限: 免疫組織化学染色用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類: 区分に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示:	不要
注意喚起語:	不要
危険有害性情報:	不要
注意書き	
安全対策:	不要
応急措置:	不要
保管:	不要
廃棄:	不要

3. 組成及び成分情報

化学物質の区別: 混合物

化学名 又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
タンパク質水溶液	>99.9%	-	-	-	-
アジ化ナトリウム	<0.1%	NaN ₃	(1)-482	既存	26628-22-8

着色料を含む。

分類に寄与する不純物及び安定化添加物: 情報なし

労働安全衛生法 非該当(本品のアジ化ナトリウム濃
 度が 1%未満の為)

化学物質排出把握管理促進法、PRTR 法	非該当(本品のアジ化ナトリウム濃度が 1%未満の為)
毒物及び劇物取締法	非該当(本品のアジ化ナトリウム濃度が 0.1%以下の為)

4. 応急措置

暴露措置による応急処置

吸入した場合	悪影響が発生した場合、非汚染区域に移動すること。 呼吸困難の場合、有資格者による酸素吸入を行わなければならない。医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合、医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合は、医師の手当てを受けること

5. 火災時の措置

消火剤	火を囲むような適切な消火剤を使用すること。
特有の危険有害性	火災危険は無視できる。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	暴露可能性に対する防護のために、空気式呼吸器(SCBA)のような個人防護服及び保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法・機材	砂や不燃材料で吸収する。 廃棄のために、適切な容器にこぼれた材料を集めること。 不必要な人を近づけないようにし、汚染区域を隔離し、立ち入りを拒否すること。

7. 取扱及び保管上の注意

取扱	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	蒸気および霧の吸入を避けること。 皮膚及び目の接触を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件	全ての最新の規則及び基準に従って保管および取り扱いを行うこと。
安全な容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産衛学会 (2014年版)	ACGIH (2015年版)
タンパク質水溶液	未設定	未設定	未設定
アジ化ナトリウム	未設定	未設定	STEL C 0.29mg/m ³

設備対策

局所排気装置を設置すること。
暴露上限を遵守させること。
作業区域には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

空中汚染水準が推奨される暴露限界を超える場合、暴露水準を抑えるのに適切な呼吸器保護具を使用すること。
仕様に適切な、特別な呼吸保護区については、健康及び安全の専門家に相談する事。

手の保護具

適切な耐薬品手袋を着用すること。

眼の保護具

眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
適切な耐薬品保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	薄緑色
臭い	無臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし

密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件では危険有害な反応は起こらない。
化学的安定性	基準温度及び基準圧力下において安定である。
危険有害反応可能性	重合は起こらない。
避けるべき条件	知られていない。
混触危険物質	知られていない。
有害な分解生成物	適切な耐薬品保護衣を着用すること。

11. 有害性情報

急性毒性

成分分析

アジ化ナトリウム (26628-22-8)

経口	LD50 Rat 45 mg/kg
経皮	LD50 Rabbit 20 mg/kg;

吸入 データがなく分類できない。

皮膚腐食性/刺激性 データがなく分類できない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 データがなく分類できない。

呼吸器感作性 データがなく分類できない。

皮膚感作性 データがなく分類できない。

生殖細胞変異原性 データがなく分類できない。

発がん性 データがなく分類できない。

生殖毒性 データがなく分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) データ不足のため分類できない。

吸引性呼吸器有害性 データがなく分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性) データがなく分類できない。

水生環境有害性 長期(慢性) データがなく分類できない。

オゾン層への有害性 モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装	<p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> <p>特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。</p> <p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
----------	--

14. 輸送上の注意

本品は危険物に該当しない。

国際規則	Regulatory Information by Sea	Complied with IMO.
	Regulatory Information by Air	Complied with ICAO/IATA.
国内規制	陸上規制	消防法の規定に従う。
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	航空規制情報	航空法の規定に従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
化審法	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
廃棄物処理法	非該当
消防法	非該当
船舶安全法	非該当
航空法	非該当

16. その他の情報

連絡先	株式会社ニチレイバイオサイエンス
参考文献	NITE GHS 分類公表データ EU CLP Regulation, AnnexVI RTECS ECHA C&L Inventory Database 記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。

安全データシート

作成日: 2021 年 10 月 25 日

SDS 番号: J-1082

第 1 版

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: 酵素・第二抗体標識ポリマー
 製品コード: AT2710-1: ヒストファイブ HER2 IHC キット(POLY); 酵素・第二抗体標識ポリマー; 5.2 ml × 1
 供給者の会社名: 株式会社ニチレイバイオサイエンス
 住所: 東京都中央区築地 6-19-20
 担当部門: 品質保証部
 電話番号: 81-3-3248-2207
 FAX 番号: 81-3-3248-2243
 メールアドレス: n1060x005@nichirei.co.jp
 緊急連絡電話番号: 81-3-3248-2207
 推奨用途及び使用上の制限: 免疫組織化学染色用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類: 区分に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示:	不要
注意喚起語:	不要
危険有害性情報:	不要
注意書き	
安全対策:	不要
応急措置:	不要
保管:	不要
廃棄:	不要

3. 組成及び成分情報

化学物質の区別: 混合物

本品は水溶性のタンパク質溶液で、保存剤として methylisothiazolone (< 0.1%) 及び bromonitrodioxane (< 0.1%) を含む。

本品は危険物を含んでいない。

4. 応急措置

暴露措置による応急処置

吸入した場合	悪影響が発生した場合、非汚染区域に移動すること。 呼吸困難の場合、有資格者による酸素吸入を行わなければならない。医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合、医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合	飲み込んだ場合は、医師の手当てを受けること
5. 火災時の措置	
消火剤	火を囲むような適切な消火剤を使用すること。
特有の危険有害性	火災危険は無視できる。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 暴露可能性に対する防護のために、空気式呼吸器(SCBA)のような個人防護服及び保護具を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法・機材	砂や不燃材料で吸収する。 廃棄のために、適切な容器にこぼれた材料を集めること。 不必要な人を近づけないようにし、汚染区域を隔離し、立ち入りを拒否すること。
7. 取扱及び保管上の注意	
取扱	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	蒸気および霧の吸入を避けること。 皮膚及び目の接触を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	全ての最新の規則及び基準に従って保管および取り扱いを行うこと。
安全な容器包装材料	全ての最新の規則及び基準に従っている容器を使用する。
8. 暴露防止及び保護措置	
本品の含有物に暴露限界は設定されていない。	
設備対策	局所排気装置を設置すること。 暴露上限を遵守させること。 作業区域には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	空中汚染水準が推奨される暴露限界を超える場合、暴露水準を抑えるのに適切な呼吸器保護具を使用すること。 仕様に適切な、特別な呼吸保護区については、健康及び安全の専門家に相談する事。

手の保護具	適切な耐薬品手袋を着用すること。
眼の保護具	眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	適切な耐薬品保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色
臭い	無臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
<i>n</i> -オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件では危険有害な反応は起こらない。
化学的安定性	基準温度及び基準圧力下において安定である。
危険有害反応可能性	重合は起こらない。
避けるべき条件	知られていない。
混触危険物質	知られていない。
有害な分解生成物	適切な耐薬品保護衣を着用すること。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しない
	吸入	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しない
	吸入:	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しない
	上記	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しない

	吸入:	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に粉塵、該当しない)のため、区分に該当しないミスト
皮膚腐食性/刺激性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
呼吸器感作性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
皮膚感作性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
生殖細胞変異原性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
発がん性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
生殖毒性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
誤えん有害性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
12. 環境影響情報		
水生環境有害性 短期(急性)		加算法による既知の区分濃度が0%で、濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性)		加算法による既知の区分濃度が0%で、濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しない
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> <p>特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。</p>
汚染容器及び包装		<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>

14. 輸送上の注意

本品は危険物に該当しない。

国際規則	Regulatory Information by Sea	Complied with IMO.
	Regulatory Information by Air	Complied with ICAO/IATA.
国内規制	陸上規制	消防法の規定に従う。
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	航空規制情報	航空法の規定に従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
化審法	非該当
化学物質排出把握管理促進 法 (PRTR 法)	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
廃棄物処理法	非該当
消防法	非該当
船舶安全法	非該当
航空法	非該当

16. その他の情報

連絡先	株式会社ニチレイバイオサイエンス
参考文献	NITE GHS 分類公表データ EU CLP Regulation, Annex VI RTECS ECHA C&L Inventory Database 記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。

安全データシート

作成日: 2021 年 10 月 25 日

SDS 番号: J-1082

第 1 版

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:	発色基質
製品コード:	AT2710-1: ヒストファイン HER2 IHC キット(POLY); 発色基質; 2 ml × 1
供給者の会社名:	株式会社ニチレイバイオサイエンス
住所:	東京都中央区築地 6-19-20
担当部門:	品質保証部
電話番号:	81-3-3248-2207
FAX 番号:	81-3-3248-2243
メールアドレス:	n1060x005@nichirei.co.jp
緊急連絡電話番号:	03-3248-2207
推奨用途及び使用上の制限:	免疫組織化学染色用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類:

物理化学的危険性
健康有害性

可燃性液体 区分 4
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分 2B
生殖細胞変異原性 区分 1B
発がん性 区分 2
生殖毒性 区分 1A
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 2(肝臓)

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示:



注意喚起語:
危険有害性情報:

危険
可燃性液体
眼刺激
遺伝性疾患のおそれ
発がんのおそれの疑い
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期にわたる又は反復暴露による肝臓の障害のおそれ

注意書き

安全対策:

使用前に取扱説明書を手に入ること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

応急措置:	<p>熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。</p> <p>保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
保管:	<p>眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>換気の良い冷所で保管すること。</p> <p>施錠して保管すること。</p>
廃棄:	<p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質の区別: 混合物

化学名 又は一般名	濃度又は 濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
3,3'-ジアミノベンジジン四塩酸塩	≤2.5%	C ₁₂ H ₁₄ N ₄ .4ClH	(4)-1475 (2)-215	不明	7411-49-6
プロピレングリコール	≤50%	C ₃ H ₈ O ₂	(2)-234	-	57-55-6
エタノール	≤4%	C ₂ H ₆ O	2-202	別表第9 の61	64-17-5
水	>43.5%	H ₂ O	対象外(天然物)	-	7732-18-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物: 情報なし

労働安全衛生法	<p>名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第五十七条、政令第十七条別表第三第一号及び第十八条)</p> <p>名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)</p> <p>危険物・引火性の物(施行令別表第1)</p>	<p>エタノール(政令番号:別表第9の61)(4%)</p> <p>エタノール(政令番号:別表第9の61)(4%)</p> <p>エタノール(政令番号:4)(4%)</p>
化学物質審査規制法 (化審法)	<p>非該当(本品が体外診断用医薬品であるため)</p>	<p>優先評価化学物質(法第二条第五項)、プロピレングリコール(官報公示整理番号:2-234)</p>

4. 応急措置

暴露措置による応急処置 吸入した場合	<p>空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
皮膚に付着した場合	<p>直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。</p> <p>直ちに汚染された衣類を全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。</p> <p>皮膚を速やかに洗浄すること。</p> <p>多量の水と石鹸で洗うこと。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
眼に入った場合	<p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。</p>
飲み込んだ場合	<p>口をすすぐこと。</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
5. 火災時の措置	
消火剤	水噴霧、対アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	<p>利用可能な情報は無い</p> <p>これらの物質のあるものは燃えるが、容易に発火するものはない。</p> <p>熱で容器が爆発するおそれがある。</p> <p>火災時に刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。</p>
特有の消火方法	<p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。</p> <p>消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。</p>
消火を行う者の保護	<p>空気式呼吸器(SCBA)を着用する。</p> <p>防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎない。</p>
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置	<p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。</p> <p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p> <p>関係者以外は近づけない。</p> <p>風上に留まる。</p> <p>作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参</p>

環境に対する注意事項	照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 低地から離れる。 環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
封じ込め及び浄化の方法・機材	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱及び保管上の注意

取扱

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
眼に入れないこと。
空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

接触回避
衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
使用前に使用説明書を入手すること。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
酸化剤から離して保管する。
容器は直射日光や火気を避けること。
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

	許容濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産衛学会 (2014年版)	ACGIH (2015年版)
3,3'-ジアミノベンジジン 四塩酸塩	未設定	未設定	未設定
プロピレングリコール	未設定	未設定	未設定
エタノール	未設定	未設定	TLV-STEL 1000ppm
水	未設定	未設定	未設定

設備対策	<p>防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。</p> <p>本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p>
保護具	
呼吸器の保護具	<p>必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。</p> <p>換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。</p>
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	<p>眼の保護具を着用すること。</p> <p>保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)</p>
皮膚及び身体の保護具	<p>顔面用の保護具を着用すること。</p> <p>保護衣を着用すること。</p> <p>必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。</p>

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色
臭い	無臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	66.2°C(TAG 開放式) 67.2°C(SETA 密閉式)
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件では危険有害な反応は起こらない。
化学的安定性	通常の保管および取扱いの条件においては安定である。
危険有害反応可能性	過剰な圧力又は熱を放出する危険有害な反応又は重合は起こら

避けるべき条件
混触危険物質
有害な分解生成物

ない。
高温、加熱、火花または裸火。
酸化剤。
一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しないが、毒性未知成分を3%未満含むことから、分類できないに変更。
	経皮	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しないが、毒性未知成分を3%未満含むことから、分類できないに変更。
	吸入 (蒸気)	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しないが、毒性未知成分を3%未満含むことから、分類できないに変更。
	吸入 (ミスト)	既知の成分がすべて同一の分類区分(区分に該当しない)のため、区分に該当しないが、毒性未知成分を3%未満含むことから、分類できないに変更。
皮膚腐食性/刺激性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないが、毒性未知成分を3%未満含むことから、分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		プロピレングリコールが区分 2B で、区分 2B の成分濃度の合計が濃度限界(10%)以上のため、GHS:区分 2B「眼刺激」に該当する。
呼吸器感作性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないが、毒性未知成分を7%未満含むことから、分類できないに変更。
皮膚感作性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないが、毒性未知成分を7%未満含むことから、分類できないに変更。
生殖細胞変異原性		エタノールが区分 1B で濃度限界(0.1%)以上のため、GHS:区分 1B「遺伝性疾患のおそれ」に該当する。
発がん性		3,3'-ジアミノベンジジン四塩酸塩が区分 2 で濃度限界(1%)以上のため、GHS:区分 2「発がんのおそれの疑い」に該当する。
生殖毒性		エタノールが区分 1A で、濃度限界(0.3%)以上の為、GHS:区分 1A「生殖能又は胎児への悪影響のおそれ」に該当する。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないが、毒性未知成分を3%未満含むことから、分類できないに変更。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		エタノールが区分 1 で濃度限界($\geq 1\%$ 、 $10\%>$)範囲内であるため、GHS:区分 2(肝臓)「長年にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害のおそれ」に該当する。
誤えん有害性		動粘性率が不明のため、分類できない。

12. 環境影響情報
- | | |
|----------------|---|
| 水生環境有害性 短期(急性) | 加算法による既知の区分濃度が濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないが、毒性未知成分を3%未満含むことから、分類できないに変更。 |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | 加算法による既知の区分濃度が濃度限界(25%)未満のため、区分に該当しないが、毒性未知成分を3%未満含むことから、分類できないに変更。 |
| オゾン層への有害性 | データ不足のため分類できない。 |
13. 廃棄上の注意
- | | |
|----------|--|
| 残余廃棄物 | <p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> |
| 汚染容器及び包装 | <p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p> |
14. 輸送上の注意
- | | | |
|---------------|-------------------------------|--------------------------|
| 本品は危険物に該当しない。 | | |
| 国際規則 | Regulatory Information by Sea | Complied with IMO. |
| | Regulatory Information by Air | Complied with ICAO/IATA. |
| 国内規制 | 陸上規制 | 消防法の規定に従う。 |
| | 海上規制情報 | 船舶安全法の規定に従う。 |
| | 航空規制情報 | 航空法の規定に従う。 |
15. 適用法令
- | | |
|---------|---|
| 労働安全衛生法 | <p>名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第五十七条、政令第十七条別表第三第一号及び第十八条)(エタノール)</p> <p>名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(エタノール)</p> <p>危険物・引火性の物(施行令別表第1)(エタノール)</p> |
| 化審法 | 非該当 |
| 消防法 | 危険物第4類 第二石油類 危険等級 III 水溶性 |
16. その他の情報
- | | |
|------|--|
| 連絡先 | 株式会社ニチレイバイオサイエンス |
| 参考文献 | NITE GHS 分類公表データ
EU CLP Regulation, AnnexVI |

RTECS

ECHA C&L Inventory Database

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。